□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　こまくさ　※

日付　平成 20年 10月 27 日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験10年

評価調査員　介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

人ひとりの人生にも様々な流転があるが、このグループホームこまくさも同様。そして、まるで一つの生き物のような生きざまを感じている。ホームが誕生して7年余りの今日までには、「こまくさへ入所すると、病気にならないのよ。長生きするんよ。死なんのよ」が知らず知らずの内、広まった時期もあったが最近次々と、あの世への旅立ちの時を経験し、仲良しだった皆さんと共に辛い別れで涙に明け暮れた日もあった。スタッフが立ち直れない程の悲しみから抜け出せていない時、支えてくれたのは「どんなに物忘れが進んでいても、優しく思いやりのある人間らしい心をしっかり持っている利用者の皆さん」と、「本当に良くして頂いて・・・有難う！の言葉を掛け、その後も訪ねて下さる家族の方々」と言う。

激流もある川の流れの様な日々の中でも、その底流に流れているものが変化していない所が、こまくさの素晴らしい所と思う。利用者が入れ替わり、職員も開設以来何人か交代していると、その為に「アレッ」と思う位雰囲気が変わるホームが多い中、ここはちょっとした横揺れを感じても、暫らくすると収まっている。このホームの生き方や往き方をまざまざと示している「生きざま」がしっかりと根付いて、伝統となっているからだろう。この「生きざま」を作り続けた功績は、今日の皆さんの笑顔が称えていると私は思う。

このホームの職員は「私達は認知症患者のケアをしているんだ」という事を、殆ど忘れている。物忘れや不具合があっても「そんなの、小さい事だ」と思っている。可笑しいことがあったら、共に腹を抱えて笑い合う。辛い・悲しいと訴えがあったら一緒に泣く。だからこそ、お年寄りは腹の内をぶつける事が出来る。そして、だからこそ、それに勝る笑顔も多いのだろう。取るに足らないようなほんの些細な日常を、見る見る内に「利用者の意欲・活力」を生み出し、丁々発止ばかり渡り合うやり取りを展開させる力量・コミュニケーション力を、職員は持っている。高齢の母と暮らしている私は、何時もここのやり取りを我が家の情景と重ね合わせながら見ている。家族と共に暮らしていても本音が言えるお年寄りがどれ程いるだろうか。実の娘と自宅で暮らす我が家の母でも「早くお迎えが来ないか」と念仏を唱えるように訴え続けている事を知って欲しい。

そして、いつまでも、今のままの居心地の良いホームを守り続けて欲しい。

特に改善の余地があると思われる点

グループホームの外部評価で訪問して「今以上の努力や改善をアドバイスするのはどうか？」と悩む事がある。考えた行く先は、グループホーム等介護施設を取り巻く制度であったり、行政レベルの問題に突き当たる事が多い。改善の余地と言う事ではなく「お願い」にあたる事だが「認知症高齢者が安心して暮らせる世の中を願う」という共通の認識を持つ私達と共に、世の中にホームが抱える問題点についての声を大きくして頂きたい。認知症ケアの啓蒙についてリーダー的存在であるグループホームこまくさの代表者の訴えは大きな影響を与えてくれるものと思っております。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1、 自主評価について･･･ ホームの理念の具体化や共有･実現に関する改善項目は無い。明確で分り易い「物忘れを認め、同じ痛みを持った仲間同士が今ここでを大切に笑顔溢れる生活を目指す」という目標は日々営々と実現されていて、ぶれる事が無い。 2、 全体的に見て･･･ 「私は家族から捨てられた。生きていない方がいい」「人が眠りかけたらドーンと戸を開けて･･･。私しゃあ、看視されにゃいけん程ボケとりゃせんし、監獄に入っとる訳でもないんじゃ」こんな悲痛な心の叫びを職員はがっちりと胸で受け止めている。そして「こんな訴えを何時でも聞くよ」という姿勢が利用者に伝わるから、お年寄りは甘え切っているかと思えば、利用者は職員の苦悩に敏感で、親が子を優しく労わるように体を撫でたりさすってやったりする。「人にしてやる事」に年寄りは生き甲斐を感じている。こんな情景がよく見られるグループホームである。		

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、 自主評価について･･･ 利用者が本来の自分を取り戻して生き生きとした暮しをする為には場作り、環境整備も必要だ。今後取り組みたい事に「未知な事が多いだろう」という認識は非常に重要で、例えば３Ｆの畑作りも、是非利用者と知恵を絞り生き甲斐とリハビリの為のチャンスと心得て挑戦して頂きたい。 2、 全体的に見て･･･ 利用者が落ち着いて生活出来るような場作りの域を越えて、利用者本人達が本来単調で何事もないような平穏の暮しを活気付けている。職員のその為の火付け役が実に上手い。この活気がリビングルームの食卓付近で、エレベーター横のゆったり出来るソファで、突然沸き上がる。か、と思えば、各自の居室で、畳みコーナーで、ひとりゆっくりしている人も居る。集団生活の良さを十分活かしながら「あなたの事を決して忘れてないよ」というメッセージを一人ひとりに常に送り続けているホームだからこのような場作りが出来ているのだろう。		

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、 自主評価について･･･ 改善項目としてはあげられてはいないが、「その人が、今、ここで」を常に念頭に置き続けているホームであるので、この項目について職員は何時も敏感で目と耳を研ぎ澄ましているのではないかと思われる。 2、 全体的に見て･･･ 洗濯物の仕事は私に任せて下さいと言わんばかりの人、台所仕事や買物になると張り切る人、皆さんに茶の湯を点てたり、手紙がさらさらと書ける人等、日常生活の中で家事や趣味や楽しみ事を通してその人の力と意欲が十分発揮されるようよく支援している。更に未だ自分達が知らない事があるのではないか？と、本人や家族から情報を探り出そうという努力は、今のまま続けて欲しい。見付けたら「宝物」にして欲しい。今、それがここでの生活に移せるものでなくても、「宝物特集」として、見続けられる記録として残したい。三年先には役立つかも知れないと思う。		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1、 自主評価について･･･ 日常生活を常日頃よりよく見直し、例えば「食事時のエプロンはプライドを傷つけていないか」「歯磨きは朝夕確実にしているが、昼食後はうがいだけでも」等細やかな改善を積み重ねていこうとしている。こういった地道な見直しも大切だろう。 2、 全体的に見て･･･ サービスの質の向上に向けて取り上げたい事は山程あるが、その一つとして「職員ひとりの気付きを共有財産にする手法」に注目したい。「私はこう関わりました」という各職員のカラーは大切にして、良かった事･悪かった事を自慢し合ったりして共有している。利用者個別の記録“私の想い”にはその人の言動が詳細に書かれ、その時のその人の思いが痛いほどよく判る。これ程の記録はあまり見た事が無い。こういったホームの姿勢は日常の暮らしからも、「こまくさだより」からも、よく伝わり、運営推進会議では家族や地域の人達の方からテーマが提案されていると言う。この会議への出席者も多く多彩で、それぞれの立場からホームの応援団になってくれている。応援団の輪はどんどん拡がっている。		